南会津“自立と共生”推進プラン２０２５

「南会津教育事務所事業推進の重点」は こちらから ⇒

「広報 南会」の バックナンバー は こちらから ⇒

「学校の在り方変革」による教員・学校の力の最大化

５月２２日（木）、新任教務主任研修会を実施しました。

学校の教育目標や運営ビジョンを軸とし、「育みたい資質・能力」を、学校全体で共有することの大切さや教務主任の役割について理解を深めました。

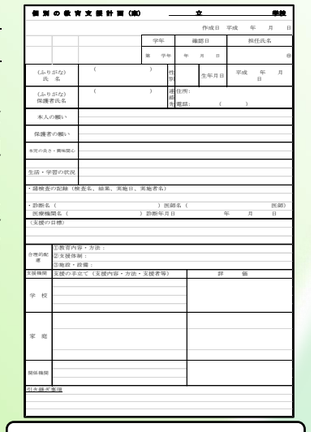
「適切な教育課程の編成・実施・評価」の講義では、D-CAP サイクルを紹介しました。D-CAP サイクルとは、日々の教育活動実施後に（D）→資質・能力育成の視点で評価（Check）→改善案を作成（Action）→次プラン提案（Plan）という（CAP）の流れを１セットとして行うカリキュラム・マネジメントの一つです。一年間の教育活動を学期末や年度末にまとめて振り返るよりも、D-CAP サイクルをその都度行うことは、課題解決に向けた気付きを速やかに教育活動の質的向上へ反映できるよさがあります。参加者の感想から、「行事反省を大事にし、D-CAP を取り入れたい」「先生方の思いを把握し、管理職の先生と連絡調整したい」等の感想が聞かれました。

めざす児童生徒像や資質・能力を念頭に置きながら、チームとしての学校マネジメントの推進を図り、次年度の教育課程編成へ向けて、できるところから取り組んでいただければと思います。

学びのセーフティーネットと個性を伸ばす教育による多様性を力に変える土壌の確立

６月２３日（月）、福島県公立学校長研修会南会津地区研修会を開催し、特別支援教育に関する内容の講義・伝達を行いました。みなみあいづ支援学校の開校までのスケジュールを確認した後、講師の齋藤秀美先生（特別支援教育アドバイザー）より「児童生徒の卒業後を見据えた小・中・高の連携」について講話をいただきました。また、「個別の教育支援計画の活用・引継ぎ」や「校内支援委員会やケース会議」等についての研究協議を行いました。参加した校長先生からは「校種によって引継ぎの捉え方に違いがあることを知ることができた」等の感想が聞かれました。

障がいのある子供が安心・安全に生活を送るために関係者が共通理解を図っていくツールとして、個別の教育支援計画の更なる推進及び効果的な活用・引き継ぎをお願いします。



個別の教育支援計画（例）　　立　　幼稚園

作成日　平成　年　月　日

学年	編組名	担任氏名	
第　学年	年　月　日		組
（ふりがな）児童名	（　　）	性別	生年月日　平成　年　月　日
（ふりがな）保護者氏名	（　　）	続柄（父・母・祖父・祖母・その他）／電話：（　　）	
本人の願い			
保護者の願い			
本年の生き・進路課題			
生活・学習の状況			

＊健康食の記録（検査名、結果、実施日、実施者名）

・診断名（　　）医師名（　　）
医療機関名（　　）診断年月日　年　月　日

・支援の目標

合理的配慮	教育内容・方法： 支援体制： 環境・設備：	
支援機関	具体的な支援（支援内容・方法・支援者等）	評価
学校		
家庭		
関係機関		

日本語不要版

南会津版「個別の教育支援計画」

適時、本人・保護者と支援の方法や内容について確認しておくことが大事です。今の状態を記載し、活用できるようにしておきましょう。

「学びの変革」による資質・能力の確実な育成

６月２４日（火）に開催した域内学力向上担当者等研修会では、「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集（第４版）」で取り上げられた南会津町立荒海小学校と只見町立只見中学校の実践を紹介していただきました。

荒海小学校の渡部恵美先生からは、「全職員が全校生の担任のつもりで」「登校や休み時間の様子をすぐに伝え合う」等の全職員が共有している心がけの大切さや、「みんなが楽しめる全校集会」等の児童の関係づくりの工夫が紹介されました。

只見中学校の黒須一希先生からは、「『なぜだめなのか』を考えさせる学習規律を確立するための指導」や「全職員での生徒に関する情報の共有の場の設定」「授業における『誰一人取り残さない工夫』」等について具体的な取組が紹介されました。

全職員が同じ方向を向く中で実践する「安心して学べる環境づくり」が「研修観」や「授業観」の転換につながり、学力向上に結び付いていくことを改めて確認することができました。今後とも、授業の中でも一人一人の居場所づくりをよろしくお願いします。

南会津が目指す教育の基本理念

自立と共生
～『南会津』がつむぐ 南会津ならではの教育～

第7次福島県総合教育計画（学びの変革推進プラン）の6つの施策に基づき、南会津が目指す教育の基本理念や、域内の強み・課題を踏まえ、事業を実施してきました。

福島で学び、福島に誇りを持つ「福島を生きる」教育の推進

５月２９日（木）、地域連携担当教職員等南会津地区研修会を開催しました。

当日は、只見町立明和小学校の地域連携担当教職員である舟木希主査に「地域連携、みんなでやってみっぺ！」と題し、実践紹介をしていただきました。具体的な事例を基に、組織全体で取り組むことや役割を明確にすることなどの実践上のポイントを教えてくださったことで、参加者の実践意欲が高まりました。

後半は、各町村教育委員会担当者も加わり「自校・自身の実践と課題、今後の実践に向けて」をテーマに、熟議を行いました。学校、行政が「地域の子供たちのために」という共通認識をもち、それぞれの立場で実践できることを考えました。

※地域学校協働南会津地区研修会

１１月１３日（木）、南会津町南郷総合センターにて開催します。地域連携についての知見を広げる絶好の機会です。ぜひご参加ください！

安心して学べる環境整備

南会津教育事務所では、「小規模校における授業展開の魅力を生かす研修等の充実」に力に入れています。

今回は、算数・数学科イノベーション人材育成推進教員である南会津町立桧沢小学校の福田雄介先生、檜枝岐村立檜枝岐中学校の佐藤拳太先生の授業実践から見えたことを紹介します。

桧沢小学校では、５・６年生の複式による算数科の授業を実践しました。「わたり」や「ずらし」によって、教師が他学年で指導している間は、課題解決に向けて児童が時間配分を行いながら、個別学習や発表を進める姿が見られるなど、普段の授業でも児童の自主性や主体性を養う授業が展開されていることがうかがえました。

檜枝岐中学校では、３年生による数学科の授業を実践しました。教師が生徒一人一人の考えの相違をじっくりと見取ったり、一人のつまずきの原因を全員で考え合う時間を設けたりしていました。

どちらも小規模校のよさの一つである全ての子供が活躍し、全員で助け合いながら学んでいく授業を展開していました。

今後も生徒指導の実践上の視点を大切にした「共感的な人間関係を育成する授業」の実践をよろしくお願いいたします。

人生100年時代を見通した多様な学びの場の確立

「南会津の児童生徒は体力がすごい！」

令和６年度の体力・運動能力調査の結果を全国と比較してみたところ、域内の小学１年生から高校３年生までの全学年・全男女で全国平均を大きく上回っていることが分かりました。幼児期には外遊びを推奨し、小学校では運動身体づくりプログラムを全校全学年完全実施していること、中学校・高等学校においては運動部加入率が７割を超えていること等が好結果に表れているものと考えています。

スポーツを「する、見る、支える、知る」という多様な関わり方で豊かなスポーツライフを送ることができるよう、引き続き児童生徒の健やかな体づくり、健康マネジメント能力の育成に取り組んでいきましょう。

合計得点全国比（点）

	男	女
小１	＋1.22	＋1.12
小２	＋3.07	＋2.54
小３	＋1.57	＋3.47
小４	＋1.82	＋4.30
小５	＋2.78	＋2.23
小６	＋3.30	＋5.08
中１	＋3.05	＋3.47
中２	＋1.68	＋4.85
中３	＋2.40	＋4.30
高１	＋5.47	＋4.10
高２	＋5.51	＋1.29

※運動身体づくりプログラム講座

９月３０日（火）、南郷小学校にて開催します。ぜひご参加を！